## 平成31年度 都立学校・学校経営シート

## 立 北 豊 島 工 業 高 等 学 校 全日制課程 地域に愛され、地域に開かれた工業高校 校訓「自治」 ― 実力主義、努力主義、反省主義― 「 174 008。					<u> </u>	•	子仪胜	<u> </u>		1									
地域に受され、地域に開かれた工業高校	旀	J		都 立 北 豊 島 工 業 高 等 学 校 全日制課程				^	子	10% 短大	期学	-	事 門 学 校						
大い		K	经为	世代に恐され、世代に問われた工業古法	路特														
不		0		心場に変され、心場に用かれた工未高仪   <sub>±</sub>	ŧ	= +:	部活動											球部、	軽音楽
## 在 地	孠	4	4/2	校訓「白治」 _ 実力主義 奴力主義 反火主義 _															
日報三田原		~	•	「スロ川・ロノロ」 一夫刀工我、労刀工我、以有工我一	学	<b>호 전</b>	交 評 価	生徒	き 授業派	鵲足度:€	65%、生	三徒近	<b>生路満</b>	足度:7	70%、得	R護者派	苘足度	:83%	
## フ セ ス 2 年 東京 上級 中 1 日本 2 日本		所	在 地	7															
# 7 クセス ② 東京東上線・田塚原 「辛寒を参称8分	₩				ː [ ]	` -				里女	1 23			里女	0.94			里女	0.77
本   学   料総合技術科   報告技術科   報告技術   報告   報告技術   報告   第書		アノ				之		20		33		30		33	0.31	-	-	27.2	0.11
		, ,						在	<b>堆</b> 蘑				推薦				推薦		
	١. ١			X 2 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	者	對		曲	111111111111111111111111111111111111111			曲	1年////						
世	本	学	科	総合技術科	<b>.</b>	iii		又				又				☆	ŀ		
情 教育課程の	-	在	籍		₹ 選	選   代	-	쇼		里女	0.93			里女	0.76		_	里女	0.73
特 後 の 他 デュアルシステム推進校   校 服 標準服						. 🗀						. 1		73.00	0.10	<b>∃</b> .:		73.00	0.10
特 後 の 他 デュアルシステム推進校   校 服 標準服	情	薮昋	課程の		扱			土			——————————————————————————————————————				<u> </u>				
## ホームページ   http://www.kitatoshimakogvo-h.matro.tokyo.io   自律経営推進万算   3,108   31年度(単位,万円)   4			微	50分6限授業、省熟度別クラス(国語・数学・英語・情報技術基礎)	=				検査				検査				検査 ├		
報	-		1-5	白律経営推進予算	別情	育										-	-		
世報の	報	ホーム	ムページ	otto://www.kitatochimakom/o-h metro tok/o in/		. Z	- の 他												
日	TIA			里之. 註拗(里)	T)		り特徴												
目指 す 学校 本校は創立99年目の伝統ある工業高校である。校訓に「自治」を掲げ、「自らの人生を自ら治める」ことができる人材」「本校で学んだ知識と技術を活用して社会に貢献する」ことができる人材の育成を目指す。   今年度の重点目標		そ	の他		÷			₹.	レタ(白	冊欠)	休苔匁	修片	施行	<b>些</b> /振维	と営 数学	マ	学翌(	学年ご	*レ) 笙
日   日   日   日   日   日   日   日   日   日								_										, <del>++</del> -	. (二) 寸
大田成と技術を活用して任宝に貢献する」とかできる人材の育成を目指す。   本様の基礎学力の定着・向上と学習習慣の定着   ①全教員が共通理解の上、生徒へのきめ細やかな指導を繰り返してった結果、生徒から「わかった」「面白い」という 声が聞かれるようになり、生徒が達成感を感じるだけでなく、授業が活性化とれ発言する生徒の増加につながった。 まとめを充実させ、繰り返しによる学力の定着を図る。 ②校内寺小屋事業や補習等を実施し、組織的に基礎力の定着を図る。 ③であいった。 ②表礎学力が身についていない。生徒が達成感を感じるだけでなく、授業が活性化とれ発言する生徒の増加につながった。 ②表でサンチスプラーニングなど、授業法の工夫・改善による、主体的な学びの実現。	le ·	tie 궁	上学坛	本校は創立99年目の伝統ある工業高校である。校訓に「自治」を打	掲げ	げ、	「自らの」	人组	を目り	っ治め	る」こと	がて	きる丿	人材」「	本校`	で学ん	<i>が</i>		
全様の基礎学力の定着・向上と学習習慣の定着		1日 9	, 于 仪	知識と技術を活用して社会に貢献する」ことができる人材の育成を	2目	指	す。												
生徒の基礎学力の定着・向上と学習習慣の定着 (①スモールステップの授業の実践による達成感と、復習・振り返り・声が聞かれるようになり、生徒が達成感を感じるだけでなく、授業が活性化され発言する生徒の増加につながった。   要とめを充実させ、繰り返しによる学力の定着を図る。②校内寺力が身についていない生徒を女剣をし放解後を利用した校内寺子屋の補識は、生徒自身がも主的に参加・   屋事業や補習等を実施し、組織的に基礎力の定着を図る。③ICT (② 基礎学力が身についていない生徒を女剣をし放解後を利用した校内寺子屋の補識は、生徒自身がも主的に参加・   屋事業や補習等を実施し、組織的に基礎力の定着を図る。③ICT (図 5個 アイブラーニングなど、授業法の工夫・改善による・主   体的な学びの実現。  生徒が希望する進路の確実な実現 (① 学校全体のキャリア計画・進路指導計画に基づいた体系的なキャリア計画・進路指導計画に基づいた体系的なキャリア計画・進路指導計画に基づいた体系的な特別で教会の方案。② (クターンシップクラ表)は、日間の将来に夢を持ち、職業意識の育成ととの情報ととの複響におきなどの表表の方案。② (クターンシップクラ表)は、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対し、日間に対験に対し、日間に対験に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し、日間に対し							. •		<u></u>	年度のほ	か組レ白		2.4Hi						
では、		T)	ナ 生 小 甘	1 1 1 2 1 - 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	47.0	D F	<b>出往</b> へ(	ハキ						土田. 什	せから	「わかっ	¬ <i>†</i> ~ ı [ ī	五白い	したいう
□ 上の大力・対象がの実施になる定対の定着を図る。②校内寺小 屋事業や補習等を実施し、組織的に基礎力の定着を図る。③ICT の活用やアクティブラーニングなど、授業法の工夫・改善による、主 体的な学びの実現。 □ 学校生体のキャリア計画・進路指導計画に基づいた体系的な 市実させ、職業意識の育成と主体的に在り方生き方を考えて実現 する力の育成。③資格習得への指導と、合格に向けた補習・補講 の充実。 ② かろう。② ② グスターンシップやデュアルシステムを 充実させ、職業意識の育成と主体的に在り方生き方を考えて実現 する力の育成。③資格習得への指導と、合格に向けた補習・補講 の充実。 ② かた変との発生が必定を表生を対した相談と、会格に向けた補習・補講 の方実。 ② 学校宇高の充実と規範意識の醸成 ① 規範意識の醸成や安全教室等を充実させ、社会人としての資質 能力を育成。②学校行事の活性化と知活動の活性化を図り、生 性の満足度や帰属意識を高める。 ③ 地域との連携の充実を図る。 ④ 3 8 今年度の数値目標の内容  ② 2 日東の内容   10 日標   10 日頃から全教職員で声掛けを中心に行い、決して強制するのでなく物事を理解させ解決できる自主性を育成する。 ② 2 学校子の活用により相談しやすい環境づくりを図り、 組織的対応を実践する。  ② 2 日頃の内容   10 日標   10 日本   10 日本	l F																		
■ というでは、	_		リスモー	レスナツノの技未の夫岐による连戍恩と、復首"振り巡り"   戸が調がれいるよりに	ーなり	ハエ	これとかり毛が	ナナン	1800	は 単 公ま	メン、コスタンチルト	たが	カキユ	一見の対	日はん	上足りた	自かがら	・シェル	マ糸加
①	桿				. フv ISD み	いるか	* 'な' '王1	止せ、	刈 多(に)	以味饭で	こが用し	に仅	- 新啦!	/生り州 日/ァト2	日ロ冉(み、 ス七ケ宝田 公	エルロ	ガルギ	出土は	図は業
体的な学びの実現。																			白無神
世にいて、ボームルームや進路説明会において将来の職業について意識させる系統的なキャリア教育を実践した結果、自らの将来に夢を持ち、職業意識が芽生え学校で学ぶ意義と大切さを考える生徒が増えた。といて教育の充実。②インターンシップやデュアルシステムを充実させ、職業意識の育成と主体的に在り方生き方を考えて実現する力の育成。③資格習得への指導と、合格に向けた補習・補講の充実。②学校生活の充実と規範意識の商成の発達を表えませ、社会人としての資質・物力を育成。②学校行事の活性化と部活動の活性化を図り、生徒の満足度や帰属意識を高める。③地域との連携の充実を図る。④SCやYSW等の活用により相談しやすい環境づくりを図り、組織的対応を実践する。    全性を分析を表していて、ボームルームや進路説明会において将来の職業について意識させる系統的なキャリア教育を実践した結果、自らの将来に夢を持ち、職業意識が芽生え学校で学ぶ意義と大切さを考える生徒が増えた。といる重要性」「社会人としての生きること」について実践により「仕事とは何か」「働くことの重要性」「社会人としての生きること」について実践でする力の方成。人間を表していて、では、大きなの光生方が組織的に早朝及び放課後、土曜日や長期休業中において資格習得の講座を開講するだけでなく生徒一人ひとりの取組みに合わせ補習補講を行うことで合格へと導いた。②技権力を育成。②学校行事の活性化と図り、生徒の満足度や帰属意識を高める。③地域との連携の充実を図る。④SCやYSW等の活用により相談しやすい環境づくりを図り、組織的対応を実践する。    全様に対していて、次として必要な管質能力を身に付けさせることができ規範意識の向上が認ら結果、充実感の高い行事となった。部活動は、専門性の高い部活動指導員を複数配置することで技術力が向上し部活動への取組みが充実した。組織的対応を実践する。   全様に対していて、次として必要な管質能力を身に付けさせることができ規範意の向上が関いれた。②が存祭や文化祭において生徒の自主性を尊重し自分の考えを形にさせる指範の結果、充実感の高い行事となった。部活動指導員を複数配置することで技術力が向上の部活動への取組みが充実した。例は他的対応を実践する。   全様に対していて、次としての資質・ためでは、対していて、次として必要な管質能力を力に対していて、次として必要な管質的力を表していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対していて、表に対して、表に対して、表に対していて、表に対していて、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対し、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対し、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対し、表に対して、表に対して、表に対し、表に対して、表に対して、表に対して、表に対し、表に対して、表に対して、表に対し、表に対して、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対して、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し	(1	/		O													・フルム	1°5/1°0	
日				3 47 34 360												-			
標 キャリア教育の充実。 ②インターンシップやデュアルシステムを 充実させ、職業意識の育成と主体的に在り方生き方を考えて実現 する力の育成。 ③資格習得への指導と、合格に向けた補習・補講 の充実。  ②																			教育を
<ul> <li>売実させ、職業意識の育成と主体的に在り方生き方を考えて実現する力の育成。③資格習得への指導と、合格に向けた補習・補講の充実。</li> <li>で真剣に考える生徒が増え、職業選択に一層に真剣に取り組むようになった。</li> <li>③授業以外に多くの先生方が組織的に早朝及び放課後、土曜日や長期休業中において資格習得の講座を開講するだけでなく生徒一人ひとりの取組みに合わせ補習補講を行うことで合格へと導いた。</li> <li>「規範意識の醸成や安全教室等を充実させ、社会人としての資質・能力を育成。②学校行事の活性化と部活動の活性化を図り、生徒の満足度や帰属意識を高める。 ③地域との連携の充実を図る。 ④SCやYSW等の活用により相談しやすい環境づくりを図り、組織的対応を実践する。</li> <li>③とで社会人として必要な資質能力を身に付けさせることができ規範意識の向上が図れた。②体育祭や文化祭において生徒の自主性を尊重し自分の考えを形にさせる指導の結果、充実感の高い行事となった。部活動は、専門性の高い部活動指導員を複数配置することで技術力が向上し部活動への取組みが充実した。</li> <li>③近隣の小中学校との連携や町内会の行事に参加したことで生徒と高校への理解が図れた。</li> <li>④早期に生徒状況を把握しSCやYSWとの相談体制の充実を図った結果、満足した学校生活を送る生徒が増えた。</li> <li>毎年度の数値目標の内容</li> <li>1度標 実績 目標 実績 目標 実績 目標 実績 目標 1度 目標 1 目標 1 目標 1 目標 1 目標 1 目標 1 目標</li></ul>	E			The state of the second st															
<ul> <li>元実させ、職業意識の育成と主体的に在り方生き方を考えて実現する力の育成。③資格習得への指導と、合格に向けた補習・補講の充実。</li> <li>で真剣に考える生徒が増え、職業選択に一層に真剣に取り組むようになった。</li> <li>③授業以外に多くの先生方が組織的に早朝及び放課後、土曜日や長期休業中において資格習得の講座を開講するだけでなく生徒一人ひとりの取組みに合わせ補習補講を行うことで合格へと導いた。</li> <li>①日頃から全教職員で声掛けを中心に行い、決して強制するのでなく物事を理解させ解決できる自主性を育成する。</li> <li>①日頃から全教職員で声掛けを中心に行い、決して強制するのでなく物事を理解させ解決できる自主性を育成する。</li> <li>②学校行事の活性化と部活動の活性化を図り、生徒の満足度や帰属意識を高める。 ③地域との連携の充実を図る。 ④SCやYSW等の活用により相談しやすい環境づくりを図り、組織的対応を実践する。</li> <li>③とで社会人として必要な資質能力を身に付けさせることができ規範意識の向上が図れた。</li> <li>②体育祭や文化祭において生徒の自主性を尊重し自分の考えを形にさせる指導の結果、充実感の高い行事となっる。 ④SCやYSW等の活用により相談しやすい環境づくりを図り、組織的対応を実践する。</li> <li>毎年度の数値目標の内容</li> <li>「28年度」29年度」30年度 30年度 32年度 33年度 34年度 1標 実績 1 標 1 長標 1 目標 1 目標 1 目標 1 目標 1 目標 1 目標</li></ul>	<del>1</del> 3														社会人	、として	の生き	ること」	につい
************************************	行	T .	充実させ																
の充実。	(2		する力の													「資格習	習得の	講座を	開講す
学校生活の充実と規範意識の醸成	رق		の充実。	るだけでなく生徒一	一人で	ひと	りの取組み	メに	合わせる	補習補詞	<b>불を行う</b> こ	ことで	合格^	√と導レ	た。				
1		į	学校生活	の充実と規範意識の醸成 ①日頃から全教職員	員で	で声は	掛けを中心	いに	テい、 対	として強	制するの	つでな	く物事	を理解	させ解	決でき	る自主	性を育	成する
## 「お力を育成。 ②学校行事の活性化と部活動の活性化を図り、生	E		1.4.4.4.1 1.担新音	識の醸成や安全数室等を充実させ、社会人としての資質・ことで社会人として														,	,
(表の満足度や帰属意識を高める。 ③地域との連携の充実を図る。 ④SCやYSW等の活用により相談しやすい環境づくりを図り、 組織的対応を実践する。		1										を形	にさせ	る指導	の結果	、充実	感の高	い行事	事となっ
3名。 ④SCやYSW等の活用により相談しやすい環境づくりを図り、 組織的対応を実践する。③近隣の小中学校との連携や町内会の行事に参加したことで生徒と高校への理解が図れた。 ④早期に生徒状況を把握しSCやYSWとの相談体制の充実を図った結果、満足した学校生活を送る生徒が増えた。数値 目標① 目標②7年度の数値目標の内容28年度 日標 1月標 1月期に生徒状況を把握しSCやYSWとの相談体制の充実を図った結果、満足した学校生活を送る生徒が増えた。数値 日標②30年度 1月標 1月標 1月標 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 1月度 	標	#	記の法具	***															
組織的対応を実践する。       ④早期に生徒状況を把握しSCやYSWとの相談体制の充実を図った結果、満足した学校生活を送る生徒が増えた。         数値       「日標①」       今年度の数値目標の内容       28年度 29年度 30年度 30年度 32年度 33年度 34年度 1月標	G				シー	)連;	集や町内	合の	行事に	参加した	・アレでは	上待り	·高校~	への理	経が図え	1.75-	/ -/  <u>- 1</u> - / - /	/	
数値目標の内容     28年度 29年度 30年度 30年度 5年度 32年度 33年度 34年度 34年度 1月標	(3	<i>(</i> )															送ろ生	徒が増	ラた
1	N/e		1年前的ログストング		∟الت ا	⊔ IJ±													-
10     目標①     就職内定者(人)     83     110     100     88     100     77     90     87     100     100       日標②     ガス溶接(人)     70     77     80     62     80     79     80     78     80     80     80				今年度の数値目標の内容											フモは	え 3. 3.集			
目標(1)   おねばりだ者(人)   85   110   100   88   100   17   90   87   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100	値		日梅年	+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +															
<b>  1   1   1   1   1   1   1   1   1   1</b>																			
		<b>.</b>	日煙(3	) <b> </b> 第2種雷気工事士(人)			1 3	8 I	14	L 25	17	25	2.4	4 <b>I</b> 2	25 I S	20	25	25	2.5